

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		まはろ		公表日			令和7年 5月 25日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	9		・過密にならないようにしている。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	1	・子どもの特性をしっかりと把握しており、職員の配置数のみならず、職員の性別も含め、子どもにあった職員を配置するように工夫している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	9		・基本的には単純な構造になっているので、子どもたちにとっては分かりやすい生活空間になっている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	9		・開放的な空間が大半を占めている。そのため常に清潔な状態が維持できている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	9		・利用者の年齢、性別を配慮し、個別の部屋（空間）を有効に活用している。 ・自習室や更衣スペースを、音や視覚を遮ったり、クールダウンの場として活用している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	4		・始業・終業時の話し合いや毎日のミーティングを更に深く話し合う必要がある。 ・始業ミーティングを通して、情報共有をしているが、パート従業員が多いため、PDCAサイクルの協議参画が薄い。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	3	・連絡は受けている（担当者から）	・モニタリングの際や連絡帳のやりとりの他、日々保護者の方々のお話に耳を傾けていく。 ・評価表をもとに話し合いを持つ機会がない。情報伝達によって補っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	9		・機会を設けているかは分からないが、その場で話し合うことはできている。 ・一人一人の職員の声に耳が傾けられている。職員への気配りが十分に感じられる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	5		・第三者評価がいつ、どんな形で行われているかが分からない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	1	・研修機会は確保されており、職員の個人的な都合で研修に参加できない場合でも、資料・情報共有の場を用意している。		
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	1			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	9		・親子のニーズをしっかりと受け止めたうえで、計画を作成し遂行している。	・アセスメントを密に行うことが必要。	

適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	1	・職員からの情報をしっかりと把握して、子どものために第一に考えた支援計画を打ち出している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	9		・事前の打ち合わせ会をしっかりと行っており、計画が職員に周知されている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	2		
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	1		・ガイドラインの周知が薄い。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	2		・チームで意見を出し合う場を設ける。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	1	・日々、こども一人一人に対して、工夫されたプログラムを用意できるようにしている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	1	・集団活動を意図的に取り入れて、集団生活に適応できるよう配慮をしている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	9		・毎日欠かさず実施している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	4		・職員の終業時刻がまちまちのため、（特にパート）振り返りができていない。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	1	・つとめて記録している。特に再発防止につながる事例については記録を徹底して残している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	1		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6	3		・ガイドラインの周知が薄い。
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	9		・個の支援の中で子供が自己決定する機会を意図的に設けている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7	2	・保育士の参加も積極的に行っている。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	3	・立地条件の良さを生かし、かつ関連の部署との連携を生かしながら支援をしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	9		・学校との情報共有は密にするよう心がけている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	3	・子どもの生育歴など、情報を共有するようにしている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	4		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	5		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	6		

携	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	3	6		
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	9		・連絡帳だけでなく、直接お話をさせてお話をさせていただいたり、お話を伺ったりしている。 ・引き渡しの際、様子を伝える様心がけている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	7		・研修の機会を設けるようにしていきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7	2		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7	2	・子どもや保護者の方々の意思を尊重している。保護者の方々の思いや諸事情を考慮して、サービスを提供している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7	2		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	9		・保護者の方々の思いを真摯に受け止め、常に保護者支援のできる体制作りに努めている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	7		・機会づくりを検討する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	1		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	3		・定期的に発行する機会を設ける。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	9			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	9		・子どもの意思を理解するよう努め、保護者の方々との対話も大切にしよう心がけている。	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	7		・保護者の方々の理解も必要であるため、こういった形で地域に開かれた行事を行うのが難しいところだと思う。
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7	2		・マニュアルの周知が薄い。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7	2		・周知が薄い。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	9		・基本情報等で状況をしっかり把握している。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6	3	・食物アレルギーのある利用者への食事提供はない	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	1		・家族に周知されているかどうか分からない。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	4		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	9			

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	1	・アンガーマネジメント研修をはじめとして、虐待につながりやすい心理状況を職員一人一人が自覚できるように研鑽に努めている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	2		